

特集：持続可能な学習教育支援システムの開発と運用

ピアレビューの匿名化が学生の評価行動に与える影響

庄 ゆかり*, 長登 康**, 稲垣 知宏**, 隅谷 孝洋**, 中村 純**

Effects of Anonymity on Students' Reviewing Behavior in Peer-Review

Yukari SHO*, Yasushi NAGATO**, Tomohiro INAGAKI**, Takahiro SUMIYA**,
Atsushi NAKAMURA**

1. はじめに

ピアレビューは、ピア活動の一つである。ピア活動では、学生による意見交換を活性化させるために、まず意見を交換できる人間関係の構築や雰囲気作りが必要であるが、人間関係の構築は容易ではなく、時間的・労力的なコストがかかる。

ピア活動にICTを利用して人間関係の形成を図り効果を上げている先行研究がある^{(1)~(4)}。しかし、これらの方法も、グループ数に見合う人数のTAの導入、ピア活動のためのシステム開発と利用指導、あるいはある程度の期間継続してピア活動を行う（慣れさせる）などシステム開発やピア活動進行にコストをかけている。

本研究の目的は、低コストにピアレビュー活動を実施する方法を開発することである。有効なピアレビューのためには、一定の発言数の確保と、その発言内容が率直なものであることが必要であり、発言数と内容という二つの観点に注目してコストの低いピアレビューの方法を提案する。

発言の数について、庄ら⁽⁵⁾は、設定した評価項目について評価シートへ各レポートのレビューを記入させ、それを交換する形式のピアレビューを実施し発言数を確保した。この方法は、様子見・他者の発言待ち

などにかかる時間も排除できる。さらに、評価シートのやりとりを、専用のシステムなどではなく、学生が日常的に利用する電子メールで行えば、操作説明にかかる労力も軽減できるだろう。

内容の点では、雑誌論文査読などにおいては、匿名性の確保が客観的な評価に必須とされていることに注目した。また、電子掲示板などのICTツールを利用する匿名コミュニケーションは、他者に対する批判的意見が活発にやりとりされる環境として知られている。ICTを利用すれば、コミュニケーションの匿名化を比較的容易に実現できる。匿名コミュニケーションでは、議論が散漫になりやすい、非抑制的な発言が発生するなどの懸念もあるが、西村ら⁽⁶⁾が研究室で行った完全匿名と部分匿名によるチャットでのディスカッション実験は、評価分析を行う議題においては完全匿名のほうが発言の割合が高く、またある程度の権限を持つ存在があることで、非抑制的発言が抑えられる可能性を示している。

しかし、ピアレビューという手法やその意義について理解が十分ではない大学初年次学生に、ピアレビューの匿名化が率直な意見交換を促すかは確認されていない。

本研究は、大学初年次学生を実名群と匿名群に分け、電子メールを利用して評価シートを交換すると

* 広島文教女子大学教養教育部 (Liberal Arts Department, Hiroshima Bunkyo Women's University)

** 広島大学情報メディア教育研究センター (Information Media Center, Hiroshima University)

受付日：2014年4月25日；再受付日：2014年7月22日；採録日：2014年9月5日